

欧州景気概況(2020年10月)

調査部 副主任研究員 土田 陽介

【目次】

I. 景気概況

【ユーロ圏】 景気は緩慢ながらも回復している……………	p.1
【英国】 景気は緩慢ながらも回復している……………	p.3
【ロシア】 景気は緩慢ながらも回復している……………	p.5

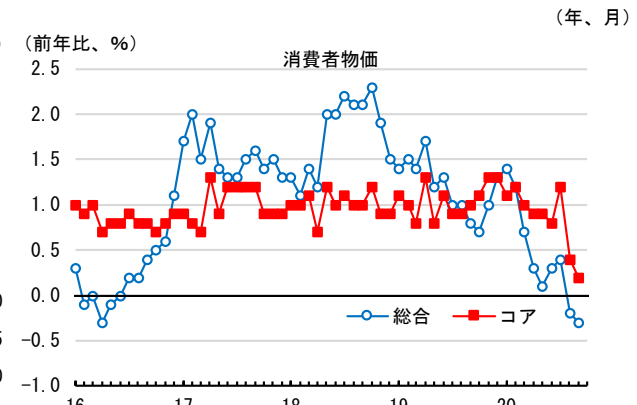
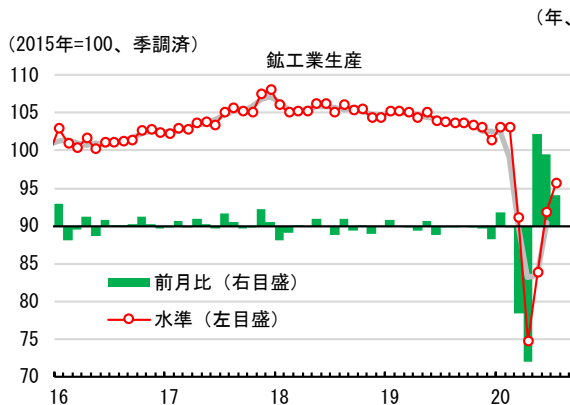
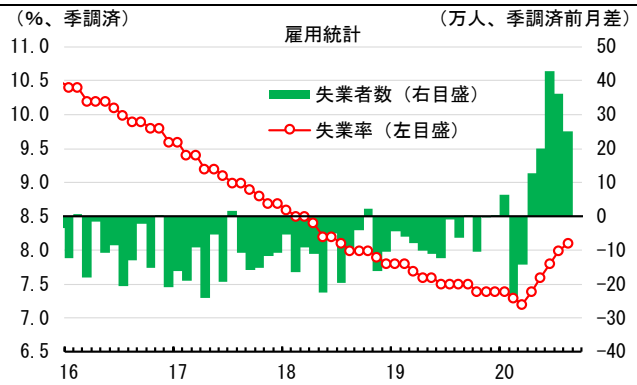
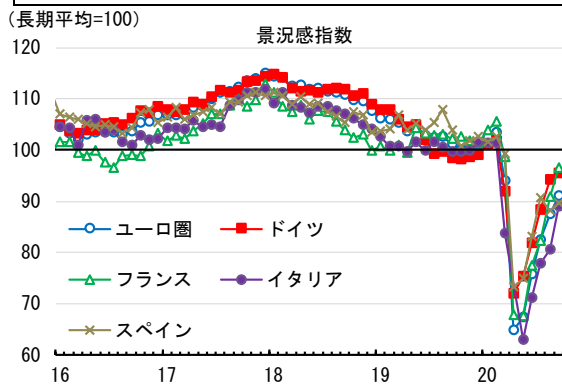
II. 今月のトピック

新型コロナの感染拡大を受けて欧州各国は規制を再強化へ……………	p.7
---------------------------------	-----

I. 景気概況

【ユーロ圏】～景気は緩慢ながらも回復している

- ・ ユーロ圏景気は緩慢ながらも回復している。ユーロ圏の4～6月期の実質GDP（確定値）は前期比-11.8%と歴史的な減少を記録した。月次の景況感指数は4月を底に9月まで上昇が続いており、各国とも同様のトレンドとなっている。
- ・ 企業部門では、7月の鉱工業生産が前月比+4.1%と増勢は鈍化している。同様に同月のコア製造業受注も同+4.2%と増加したが、回復の勢いは弱まっている。企業の景況感指数は製造業で改善テンポが鈍っているものの、サービス業は比較的しっかりしている。とはいえ、新型コロナウイルスの感染の再拡大を受けて規制を再導入する国々が増加しており、先行き企業の景況感の重荷となる可能性が高い。
- ・ 家計部門では、8月の小売数量が前月比+4.4%と再び増加し、均した動きも堅調を維持している。他方で、同月の新車販売台数は年率87.9万台と新型コロナウイルスが流行する前の水準にはほぼ戻ったが、回復の動きは一服した。個人消費を取り巻く環境を確認すると、8月の失業率が8.1%と上昇が続き、失業者数も25.1万人増と雇用の悪化に歯止めがかからない。他方で、9月の消費者物価は前年比-0.3%と、エネルギー価格の低迷や需要の弱さなどから前年割れが続いている。
- ・ 欧州中銀（ECB）は10月29日に政策理事会を予定している。物価の弱さなどから追加緩和観測が高まっているが、マイナス金利の深掘りや資産購入プログラムの拡大のハードルは高く、ラガルド総裁の会見に注目が集まる。



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (出所) 欧州委員会ECFIN、欧州連合統計局（ユーロスタット）

○ユーロ圏の主要経済指標

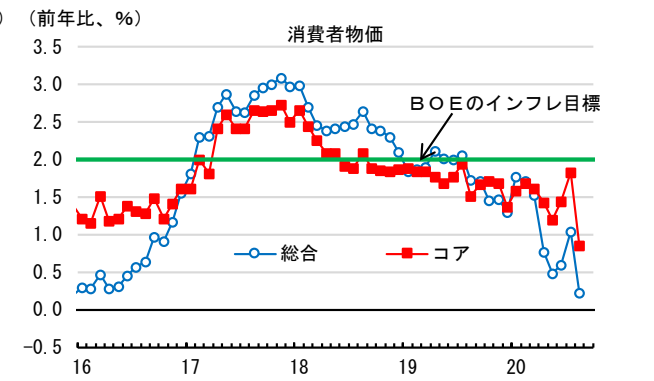
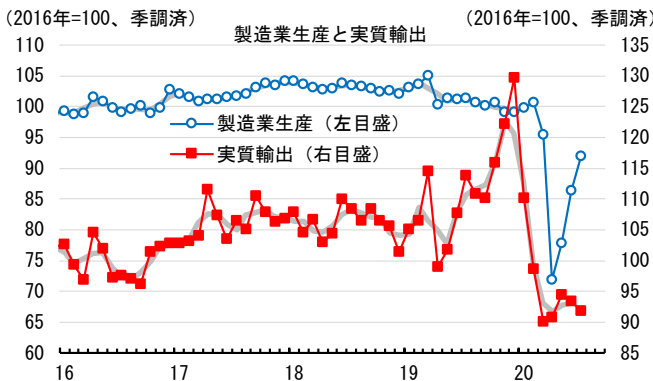
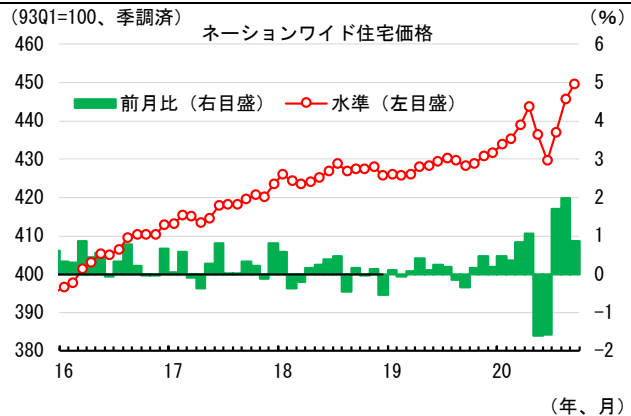
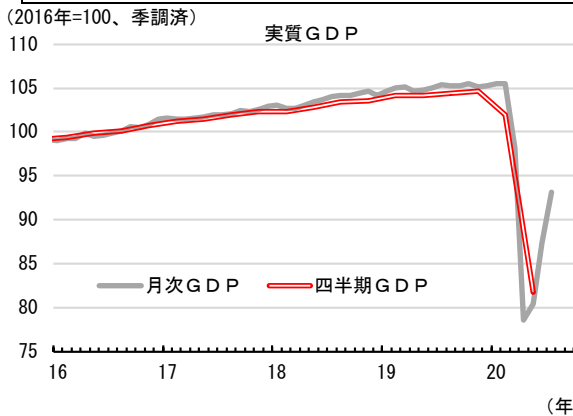
		2017	2018	2019	20/I	20/II	20/III	20/5	20/6	20/7	20/8	20/9	
全体	実質GDP成長率（前期比、%）＊	2.5	1.9	1.2	-3.7	-11.8	-	-	-	-	-	-	
	個人消費（寄与度、%ポイント）	0.9	0.8	0.7	-2.4	-6.6	-	-	-	-	-	-	
	総固定資本形成（寄与度、%ポイント）	0.9	0.6	0.8	-1.2	-3.8	-	-	-	-	-	-	
	景況感指数（長期平均=100）	110.4	111.5	103.1	100.0	69.4	87.0	67.5	75.8	82.4	87.5	91.1	
	ドイツ	110.6	111.8	102.2	98.3	76.4	92.7	75.3	81.9	88.4	94.3	95.5	
	フランス	106.6	106.0	101.9	102.7	71.0	89.9	67.7	77.5	82.2	90.8	96.6	
	イタリア	107.1	107.6	100.7	95.4	67.1	82.5	63.0	71.2	77.9	80.6	89.0	
	スペイン	108.4	108.0	104.1	101.2	77.1	89.5	74.9	83.1	90.6	88.1	89.7	
	景気 企業部門	鉱工業生産（前期比、%）＊	3.0	0.7	-1.3	-3.4	-15.8	-	12.2	9.5	4.1	-	-
		うち製造業（前期比、%）＊	3.2	1.0	-1.3	-3.5	-17.0	-	13.4	10.3	4.7	-	-
製造業受注（前期比、%）＊		7.0	3.4	-3.3	-4.7	-23.9	-	13.2	25.2	3.1	-	-	
うちコア（前期比、%）＊		7.7	2.2	-4.3	-3.4	-21.2	-	13.5	15.4	4.2	-	-	
設備稼働率（%）		82.9	83.7	82.2	80.8	66.7	73.0	-	-	-	-	-	
製造業景況感指数（平均=-4.2）		5.7	6.7	-5.1	-8.1	-27.2	-13.4	-27.5	-21.6	-16.2	-12.8	-11.1	
サービス業景況感指数（平均=6.6）		14.7	15.2	10.7	6.6	-39.2	-18.2	-43.6	-35.5	-26.2	-17.2	-11.1	
小売業景況感（平均=-6.6）		2.3	1.3	-0.4	-3.0	-26.4	-11.4	-29.8	-19.4	-15.1	-10.5	-8.7	
建設支出（前期比、%）＊		2.8	1.7	1.9	-2.9	-11.1	-	29.6	5.1	0.2	-	-	
建設業景況感（平均=-12.7）		-3.0	7.0	6.4	3.4	-15.0	-10.9	-17.5	-11.3	-11.4	-11.8	-9.6	
家計部門	小売数量（前期比、%）＊	2.4	1.6	2.3	-2.7	-5.0	-	20.5	5.5	-1.8	4.4	-	
	新車販売台数（年率、万台、季調済）	1,098	1,110	1,129	848	539	-	573	806	1,045	1,054	-	
	消費者信頼感（平均=-11.1）	-5.4	-4.9	-7.1	-8.8	-18.5	-14.5	-18.8	-14.7	-15.0	-14.7	-13.9	
	住宅価格（前年比、%）	4.3	4.7	4.2	5.0	-	-	-	-	-	-	-	
政府部門	財政収支（対GDP比、%）	-1.0	-0.5	-0.6	-1.0	-	-	-	-	-	-	-	
	公的債務残高（対GDP比、%）	87.8	85.9	84.2	86.2	-	-	-	-	-	-	-	
国際収支	経常収支（10億ユーロ）	347.1	361.0	327.2	42.1	55.0	-	16.2	23.3	16.6	-	-	
	貿易収支（10億ユーロ）	241.6	194.6	224.3	53.8	31.3	-	8.8	20.2	27.9	-	-	
	輸出（前年比、%）	7.2	4.2	2.8	-1.5	-23.4	-	-29.8	-10.5	-10.4	-	-	
	輸入（前年比、%）	9.9	7.1	1.7	-4.1	-21.4	-	-26.7	-12.1	-14.3	-	-	
雇用賃金	失業率（%、季調済）	9.1	8.2	7.6	7.3	7.6	-	7.6	7.8	8.0	8.1	-	
	失業者数（前期差、万人、季調済）	-156.7	-128.1	-71.5	-31.4	75.5	-	20.1	42.8	36.3	25.1	-	
	名目賃金・給与（前年比、%）	1.9	2.4	2.5	3.6	5.4	0.0	-	-	-	-	-	
物価	消費者物価（前年比、%）	1.5	1.8	1.2	1.1	0.2	0.0	0.1	0.3	0.4	-0.2	-0.3	
	同コア（前年比、%）	1.0	1.0	1.1	1.1	0.9	0.6	0.9	0.8	1.2	0.4	0.2	
	生産者物価（前年比、%）	3.0	3.3	0.6	-1.8	-4.5	-	-5.1	-3.8	-3.2	-2.7	-	
金融	M3（前年比、%）	4.5	3.9	5.6	6.2	9.0	-	9.3	9.3	9.6	8.7	-	
	銀行貸出（前年比、%）	1.6	2.9	3.1	3.3	4.2	-	4.6	4.0	3.7	3.5	-	
	政策金利（年利、%）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	EURIBOR3ヶ月物（年利、%）	-0.33	-0.32	-0.36	-0.39	-0.33	-0.48	-0.31	-0.42	-0.46	-0.48	-0.50	
	ドイツ10年債金利（年利、%）	0.37	0.46	-0.21	-0.41	-0.45	-0.48	-0.51	-0.40	-0.47	-0.48	-0.49	
	Eurostoxx50（期中値、91/12/31=1,000）	-	3,383	3,436	3,439	2,995	3,292	2,909	3,237	3,316	3,298	3,261	
	ユーロ/円（期中値）	127.3	130.0	122.0	119.5	118.6	124.8	119.3	120.7	124.3	126.5	123.8	
	ユーロ/ドル（期中値）	1.14	1.18	1.12	1.10	1.11	1.18	1.11	1.12	1.18	1.19	1.17	

（注）＊のついた前期比は年次データが前年比、四半期データが季調済前期比、月次データが季調済前月比を意味している。

（出所）欧州連合統計局（Eurostat）、欧州委員会ECFIN、欧州中央銀行（ECB）などの資料から作成。

【英国】～景気は緩慢ながらも回復している

- 英国景気は緩慢ながらも回復している。4～6月期の実質GDP（確定値）の前期比成長率は-19.8%と、コロナ禍が深刻な南欧諸国と比べても深刻な減少幅を記録した。とはいえ月次の実質GDPは4月を底に増加が続き、最新9月の景況感指数も再び上昇している。
- 企業部門では、7月の鉱工業生産が前月比+5.2%と増加が続いた。一方、同月の実質輸出は前月比-1.6%と2ヶ月連続で減少しており、生産と輸出の乖離が目立つ。他方で、景気のけん引役であるサービス業生産は7月が前月比+6.1%と、飲食・宿泊業を中心に回復が続いている。こうしたなか、企業の景況感は製造業、非製造業（サービス業など）を問わず改善基調を維持しているが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて首都ロンドンなどで営業規制が再導入されており、先行きの景況感の重荷になる公算が大きい。
- 家計部門では、8月の小売数量（除く石油）が前月比+0.5%と回復の勢いが一服した。同月の新車販売台数（乗用車）は前年比-5.8%と再び前年割れとなった。反面、9月のネーションワイド住宅価格は前月比+5.0%と2ヶ月連続で増勢を強めており、減税の効果などから住宅市場は騰勢を強めている。消費を取り巻く環境を確認すると、7月の失業率（3ヶ月平均値）は4.1%と前月（3.9%）から上昇するなど、雇用情勢は徐々に悪化している。また同月の週間名目賃金が前年比-0.1%とマイナス幅は前月（同-1.5%）から縮小したが、前年割れが定着している。他方で、8月の消費者物価は前年比+0.2%にとどまり、需要の弱さなどからディスインフレが進んでいる。



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
 (出所) 英国統計局 (ONS)、ネーションワイド

○英国の主要経済指標

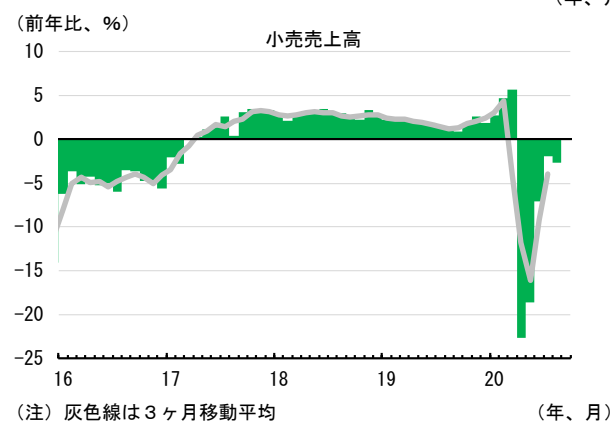
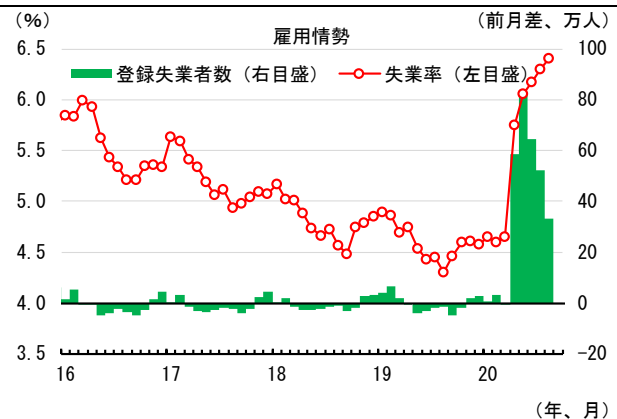
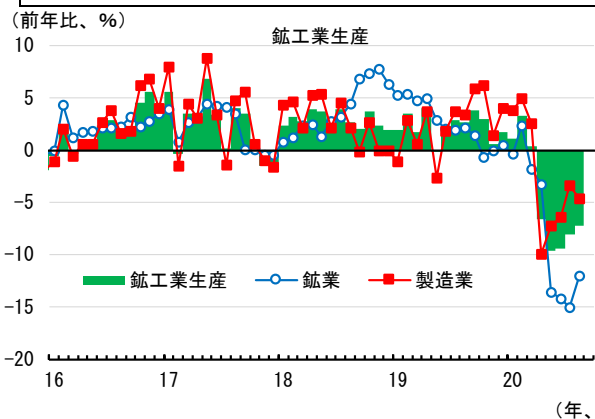
		2017	2018	2019	20/Ⅰ	20/Ⅱ	20/Ⅲ	20/5	20/6	20/7	20/8	20/9	
景気	全体	実質GDP成長率（前期比、%）*	1.9	1.3	1.4	-2.5	-19.8	-	-	-	-	-	-
		個人消費（寄与度、%ポイント）	1.4	1.0	0.7	-1.8	-14.5	-	-	-	-	-	-
		総固定資本形成（寄与度、%ポイント）	0.3	0.0	0.1	-0.2	-3.9	-	-	-	-	-	-
		景況感指数（長期平均=100）	108.4	106.8	93.9	92.7	63.1	77.9	61.7	65.2	75.5	75.1	83.0
	企業部門	鉱工業生産（前期比、%）*	0.6	-0.2	-0.5	-1.5	-16.9	-	6.2	9.4	5.2	-	-
		うち製造業（前期比、%）*	0.8	-0.3	-0.7	-1.0	-20.2	-	8.3	10.9	6.4	-	-
		サービス業生産（前期比、%）*	0.3	0.6	0.3	-2.4	-19.9	-	1.4	7.8	6.1	-	-
		設備稼働率（%）	82.9	81.7	80.6	79.2	55.1	64.5	-	-	-	-	-
		設備投資（前期比、%）*	1.0	-0.8	0.4	-0.5	-26.5	-	-	-	-	-	-
		製造業景況感指数（平均=-6.6）	10.6	5.8	-11.0	-17.9	-42.2	-24.8	-42.4	-38.9	-22.1	-30.7	-21.5
		サービス業景況感指数（平均=-0.5）	2.1	3.2	-13.0	-6.2	-63.3	-45.5	-67.3	-63.7	-54.7	-45.0	-36.7
		小売業景況感（平均=11）	-7.2	-6.8	-9.9	-7.0	-22.5	-17.0	-23.7	-21.0	-16.6	-16.6	-17.9
建設支出（前期比、%）*		0.4	0.0	0.4	-1.7	-35.0	0.0	7.6	23.5	17.6	-	-	
建設業景況感（平均=-14.6）		-4.2	-1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
家計部門	小売数量（前期比、%）*	0.3	0.8	0.4	-1.7	-10.5	-	12.1	14.0	3.6	0.8	-	
	除く石油（前期比、%）*	0.2	0.8	0.3	-0.9	-7.6	-	10.3	13.5	2.2	0.5	-	
	新車販売台数（前年比、%）	-7.1	-1.8	-2.2	-18.2	-73.7	-	-89.0	-34.9	11.3	-5.8	-	
	消費者信頼感指数（平均=-8.7）	-7.2	-6.8	-9.9	-7.0	-22.5	-17.0	-23.7	-21.0	-16.6	-16.6	-17.9	
住宅部門	イングランド住宅着工件数（年率、万戸、季調済）	16.4	16.7	15.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
	マンション住宅価格（前年比、%）	2.9	2.1	0.6	2.4	1.8	3.4	1.8	-0.1	1.5	3.7	5.0	
政府部門	財政収支（10億ポンド）	6.6	2.3	10.9	19.9	-108.5	-	-41.2	-26.1	-12.9	-31.2	-	
	公的純債務残高（対GDP比、%）	82.4	81.7	89.5	87.7	98.7	-	96.1	98.7	100.1	101.9	-	
国際収支	経常収支（10億ポンド）	-72.3	-82.9	-83.8	-20.8	-2.8	-	-	-	-	-	-	
	貿易収支（10億ポンド）	-25.1	-29.8	-25.9	-1.2	16.6	-	7.0	3.9	1.1	-	-	
	輸出（前年比、%）	11.1	4.4	6.4	-5.6	-17.4	-	-20.3	-13.2	-16.2	-	-	
	輸入（前年比、%）	9.3	4.9	5.7	-15.9	-30.4	-	-36.0	-19.8	-16.4	-	-	
雇用賃金	失業率（%、季調済、3ヶ月平均）	4.4	4.1	3.8	3.9	3.9	-	3.9	3.9	4.1	-	-	
	雇用者数（前期差、万人、3ヶ月平均）	30.9	44.4	33.6	21.1	-22.0	-	-4.4	-2.3	5.5	-	-	
	名目週間平均賃金（前年比、%）	2.3	2.9	3.4	2.3	-1.2	-	-1.2	-1.6	-0.1	-	-	
物価	消費者物価（前年比、%）	2.7	2.5	1.8	1.7	0.6	-	0.5	0.6	1.0	0.2	-	
	同コア（前年比、%）	2.4	2.1	1.7	1.6	1.4	-	1.2	1.4	1.8	0.9	-	
	生産者投入物価（前年比、%）	11.2	7.3	0.6	-0.6	-9.2	-	-10.2	-6.7	-5.7	-5.8	-	
	生産者産出物価（前年比、%）	3.4	2.9	1.6	0.6	-0.9	-	-1.2	-0.9	-0.9	-0.9	-	
金融	M3（前年比、%）	8.4	3.5	1.2	4.1	9.7	-	9.9	10.7	11.0	9.7	-	
	国内向け銀行貸出（前年比、%）	4.8	3.8	3.8	5.5	7.6	-	7.6	7.4	5.9	4.1	-	
	政策金利（年利、%）	0.50	0.75	0.75	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	LIBOR3ヶ月物（年利、%）	0.36	0.72	0.81	0.67	0.39	0.08	0.33	0.19	0.10	0.07	0.06	
	10年債平均金利（年利、%）	1.25	1.47	0.90	0.55	0.26	0.22	0.23	0.24	0.18	0.25	0.25	
	FT100指数（期中値、91/12/31=1,000）	7,378	7,357	7,278	6,871	5,977	6,058	5,956	6,245	6,167	6,074	5,933	
	ポンド/円（期中値）	144.6	147.4	139.3	139.5	133.6	137.2	131.9	135.1	135.5	139.2	136.8	
	ドル/ポンド（期中値）	1.29	1.34	1.28	1.28	1.24	1.29	1.23	1.25	1.27	1.31	1.30	

（注）*のついた前期比は年次データが前年比、四半期データが季調済前期比、月次データが季調済前月比を意味している。

（出所）英国統計局（ONS）、欧州委員会ECFIN、イングランド銀行（BOE）などの資料から作成。

【ロシア】～景気は緩慢ながらも回復している

- ロシア景気は緩慢ながらも回復している。4～6月期の実質GDP（確定値）は前年比-8.0%と、世界金融危機の直後となる2009年7～9月期（同-8.6%）以来の下げ幅を記録した。とはいえ、直近の月次の経済指標は前年比でのマイナス幅を徐々に縮小させており、ロシアでもまた景気は最悪期を脱したと判断される。
- 企業部門では、8月の鉱工業生産が前年比-7.2%とマイナス幅の縮小が進んだ。鉱業のマイナス幅が縮小した（同-15.0%から-12.1%）一方、製造業は拡大（同-4.6%から-3.4%）した。同月の原油・超軽質油生産量は前年比-13.1%と2ヶ月連続で、また天然ガス生産量も同-3.4%と3ヶ月連続でマイナス幅がそれぞれ縮小した。
- 家計部門では、8月の小売売上高が前年比-2.7%とマイナス幅は再び拡大したが、均した動きは縮小基調にある。食品がマイナス幅を拡大させた一方で、非食品は縮小した。消費を取り巻く環境を確認すると、8月の消費者物価が前年比+3.6%と、インフレが緩やかに加速している。他方で同月の失業率が6.4%と6ヶ月連続で上昇するなど、雇用情勢の悪化にも歯止めがかからない。
- 需要が低迷しているにもかかわらずインフレが加速している背景には、通貨安がある。足元のルーブルの対ドルレートは徐々に水準を切り下げており、半年ぶりの安値を付けている。反体制派の指導者の毒殺未遂疑惑を受けて欧米との関係のさらなる悪化が懸念されること、新型コロナウイルスの感染が急拡大していることなどが嫌気されている。



（出所）ロシア連邦統計局、ロシア中央銀行

○ロシアの主要経済指標

		2017	2018	2019	20/I	20/II	20/III	20/5	20/6	20/7	20/8	20/9	
景気	全体	実質GDP (前年比、%)	1.8	2.5	1.3	1.6	-8.5	-	-	-	-	-	-
		個人消費 (寄与度、%ポイント)	3.7	3.3	2.5	1.9	-12.3	-	-	-	-	-	-
		総固定資本形成 (寄与度、%ポイント)	2.5	1.3	2.2	0.3	-2.4	-	-	-	-	-	-
	企業部門	鉱工業生産 (前年比、%)	2.3	2.9	2.3	1.6	-8.5	-	-9.6	-9.4	-8.0	-7.2	-
		鉱業 (前年比、%)	2.2	3.9	2.6	0.1	-10.3	-	-13.6	-14.2	-15.0	-12.1	-
		製造業 (前年比、%)	2.8	2.8	2.5	3.8	-7.8	-	-7.2	-6.4	-3.4	-4.6	-
		電気ガス水道 (前年比、%)	0.1	1.4	0.3	-2.4	-3.7	-	-4.2	-5.0	-2.8	-3.7	-
		ウラル産原油価格 (ドル/バレル)	53.1	69.8	63.7	48.4	30.4	43.1	31.0	41.9	43.9	44.5	40.9
		鉱業信頼感指数 (ポイント)	-0.2	0.8	-0.3	-3.0	-5.0	-2.7	-6.0	-4.0	-3.0	-2.0	-3.0
		製造業信頼感指数 (ポイント)	-2.3	-3.4	-2.4	-2.3	-7.3	-5.0	-9.0	-6.0	-5.0	-5.0	-5.0
		電気ガス水道信頼感指数 (ポイント)	-1.7	-1.0	-3.0	-4.3	-9.3	-0.7	-10.0	-8.0	-4.0	-1.0	3.0
		建設支出 (前年比、%)	-0.2	6.7	0.3	1.1	-1.8	-	-3.1	-0.1	-0.2	-0.6	-
	ビル竣工件数 (前年比、%)	-23.5	21.1	46.7	2.1	-17.0	-	-	-	-	-	-	
	建設業景況感指数 (ポイント)	-17.0	-22.3	-20.0	-15.0	-21.0	-22.0	-	-	-	-	-	
	家計部門	小売売上高 (前年比、%)	1.2	2.8	1.6	4.4	-16.1	-	-18.6	-7.1	-1.9	-2.7	-
		新車販売台数 (万台)	159.6	180.1	176.0	38.3	22.5	-	6.3	12.3	14.2	-	-
消費者信頼感指数 (ポイント)		-12.4	-11.7	-14.2	-10.5	-30.0	-	-	-	-	-	-	
住宅価格 (前年比、%)		-3.6	2.5	7.2	7.1	8.1	-	-	-	-	-	-	
政府部門	財政収支 (兆ルーブル)	-1.3	3.0	2.1	0.6	-1.5	-	-0.6	-1.2	-0.4	-	-	
	公的国内債務残高 (兆ルーブル)	8.7	9.2	10.2	10.3	11.2	-	10.8	11.2	11.4	11.4	-	
国際収支	経常収支 (10億ドル)	127.8	300.8	384.3	54.0	43.6	-	-	-	-	-	-	
	貿易収支 (10億ドル)	130.3	211.1	179.0	36.5	18.2	-	4.4	5.8	5.0	-	-	
	輸出 (前年比、%)	25.9	26.4	-5.6	-13.7	-31.0	-	-35.3	-25.4	-29.6	-	-	
	輸入 (前年比、%)	25.5	6.2	2.1	0.6	-12.3	-	-12.6	-4.4	-12.6	-	-	
	対外債務 (対輸出比率、倍)	1.5	1.0	1.2	1.1	1.3	-	-	-	-	-	-	
賃金情勢・雇用	失業率 (原系列、%)	5.2	4.8	4.6	4.6	6.0	-	6.1	6.2	6.3	6.4	-	
	失業者数 (前期差、万人)	-11.9	-8.2	-0.2	3.5	206.1	-	83.3	64.4	52.4	33.3	-	
	名目賃金 (前年比、%)	7.3	10.1	7.0	8.6	2.9	-	4.0	3.8	6.4	-	-	
	実質賃金 (前年比、%)	3.5	7.0	2.7	6.0	-0.1	-	1.0	0.6	2.3	-	-	
物価	消費者物価 (前年比、%)	3.7	2.9	4.5	2.4	3.1	-	3.0	3.2	3.4	3.6	-	
	同コア (前年比、%)	3.5	2.5	4.2	2.6	2.9	-	2.8	2.9	3.0	3.1	-	
	生産者物価 (前年比、%)	7.7	12.3	2.2	-1.9	-12.1	-	-15.3	-9.7	-3.2	-1.6	-	
金融	M3 (前年比、%)	10.3	11.0	8.7	11.7	14.2	-	13.6	14.9	15.5	16.2	-	
	銀行貸出 (前年比、%)	0.4	5.8	10.8	6.8	10.0	-	9.2	10.4	12.9	12.7	-	
	政策金利 (期末値、%)	7.75	7.75	6.25	6.00	4.50	4.25	5.50	4.50	4.25	4.25	4.25	
	3ヶ月物銀行間金利 (期中値、%)	8.2	6.8	6.8	5.4	4.7	4.0	4.8	4.1	4.0	4.0	4.0	
	10年債流通利回り (期中値、%)	7.9	8.0	7.6	6.6	6.1	6.2	5.8	5.8	6.0	6.2	6.4	
	R T S 指数 (期中値、ポイント)	1,098.8	1,172.2	1,326.2	1,277.1	1,185.8	1,223.9	1,219.8	1,212.6	1,234.4	1,258.6	1,178.5	
	100円/ルーブル (期中値)	52.0	56.8	59.3	61.0	67.1	69.4	67.6	64.3	66.8	69.6	71.7	
	ドル/ルーブル (期中値)	58.3	62.7	64.7	66.5	72.2	73.6	72.5	69.2	71.3	73.8	75.7	
	ユーロ/ルーブル (期中値)	65.9	74.0	72.4	73.3	79.4	86.1	79.0	77.9	81.6	87.3	89.4	
	外貨準備高 (期末値、10億ドル)	432.7	468.5	554.4	563.5	568.9	-	566.1	568.9	591.8	594.4	-	

(出所) ロシア連邦統計局 (Rosstat)、ロシア連邦中央銀行などの資料から作成。

II. 新型コロナの感染拡大を受けて欧州各国は規制を再強化へ

(1) 各国は感染対策を強化へ

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、欧州各国では規制を再強化する動きが見られる。図表1は各国の主だった対応をまとめたものだが、各国政府が飲食店の営業制限ないしは停止などを強めていることが分かる。スペインでは首都マドリードを周辺の都市圏を含めて封鎖（ロックダウン）に踏み切ったが、春先に比べるとその程度は大分軽い。
- ・ 例えば今回のマドリードのロックダウンでは、マドリードへの不要不急の往来が禁じられた一方で、飲食店や酒場の営業は午後11時までとされてはいるものの、禁止はされていない。また公園や子供の遊び場も閉鎖されておらず、厳格な外出規制が実施された春先よりもソフトなロックダウンと言える。
- ・ フランス南部のマルセイユでは飲食店が全面的に閉鎖されたが、15日間の限定的な措置となっている。もちろん、感染状況次第では長期化する可能性も否定できないが、各国政府とも春先に採った本格的なロックダウンの再実施は回避しようとしているように見受けられる。それだけ、ロックダウンは経済的に維持しにくい政策だということだろう。
- ・ 規制の再強化に際しては、各国で中央政府と地方政府の対立が顕著になっている。新型コロナ対策としてのマスクの義務化などに反対する有権者の声も根強く、ロックダウンの導入は政治的にも社会的にも困難が伴うことは明らかである。感染拡大の早期収束のためには春先のようなロックダウンは有効かもしれないが、容易には取り得ない選択である。

図表1. 各国の感染対策

日付	内容
9月19日	アイルランド政府、首都ダブリンで飲食店への営業制限や移動制限などを導入
9月24日	英国政府、飲食店への営業規制などを導入 チェコ政府、飲食店への営業制限、イベントの規模の制限などを実施
9月26日	フランス政府、南部マルセイユの飲食店を閉鎖
9月29日	オランダ政府、大都市の移動自粛勧告、飲食店の営業規制導入、在宅勤務奨励などを実施
10月1日	スペイン政府、首都マドリードとその都市圏を封鎖
10月5日	フランス政府、首都パリとその都市圏の感染警戒レベルを最高に引き上げ、バーの営業禁止など
10月5日	ロシア政府、首都モスクワで在宅勤務奨励（従業員の30%が目標）

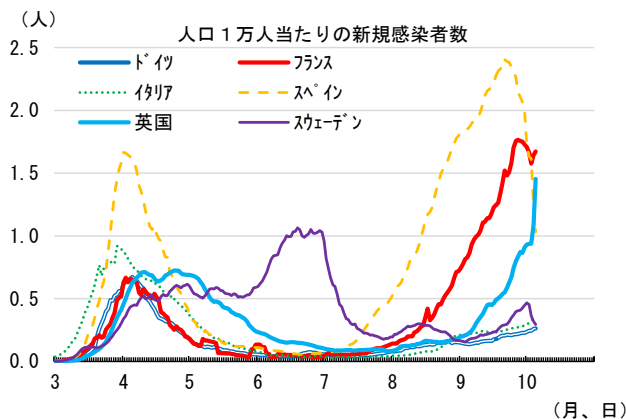
(出所) 各種報道資料より作成

(2) 感染者が拡大する一方で死者数の増加は限定的

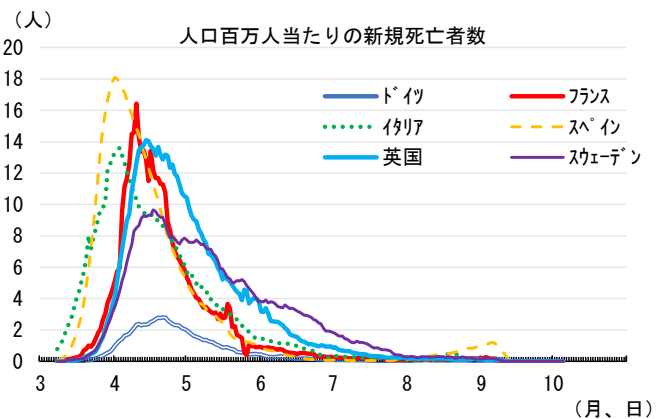
- ・ 実際に新型コロナウイルスの感染拡大状況を見たものが図表2であるが、日当たりの新規感染者数を人口1万人当たりで標準化すると、スペインとフランス、英国で春先の第一波を凌ぐ増加テンポが確認できる。うちスペインはピークアウトし、フランスは頭打ちの兆しがうかがえるが、各国とも都市部での感染者の増加が続いている。

- ・ 春先に感染者の急増を経験したイタリアの場合、スペインやフランス、英国のような急増が生じていない。感染対策の緩和に慎重だったことや夏季にディスコやナイトクラブを閉鎖するなど再規制に弾力的に取り組んだことなどが、第一波のような急速な拡大を予防することにつながった模様である。
- ・ 他方で、人口百万人当たりで基準化した新規死亡者数（図表3）は第一波とは比べ物にならないほど少ない。第一波の時期に比べると治療手段の向上などが図られ、重篤化を防ぐに至ったと考えられる。医療崩壊に対する懸念も弱まっていることから、第一波のような強力なロックダウンを急ぐ必要はないと言えよう。
- ・ 欧州でも新型コロナウイルスのワクチン開発が進んでおり、正式な承認申請の前に入手可能となったデータから順次審査を進める「ローリングレビュー」も始まっている。冬季におけるインフルエンザとの同時流行を懸念する声もあり、慎重なスタンスで臨むことに越したことはないが、一方で過度な悲観は禁物ではないだろうか。

図表2. 感染拡大の第二波が続く



図表3. 死亡者の増加は限定的



(3) 入国制限を緩和する動きも

- ・ 都市封鎖が実施される一方で、出入国制限を緩和する動きもみられる。具体的にはドイツにおける渡航自粛勧告の見直しであり、ドイツ政府は10月1日、3月以降維持してきた日本など欧州連合 (EU) 域外国に対する包括的な渡航自粛勧告を約6ヶ月ぶりに解除した。EU域外国に対しても、今後ドイツは是々非々で入国を判断する。
- ・ 日本が全世界からの入国制限を緩和したように、入国時の隔離義務を課す形で、長期滞在やビジネス目的の渡航者を受け入れる動きが広がっている。欧州においても、感染の状況を見極めつつ、アクセルとブレーキをこまめに踏み分けながら新型コロナウイルスとの共存を図る状況がしばらく続くだろう。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。